

第32回駐日外交団の地方視察ツアー(福島県)

平成31年1月
地方連携推進室

平成31年1月15日から16日まで、外務省と福島県の共催で、駐日外交団を対象とした地方視察ツアーを実施し、駐日外交団23か国1機関より24名の大使、公使等が参加しました。

このツアーでは、2011年の東日本大震災から約8年を経た福島県での復興への取組について理解を深めることを目的に、同地の特色ある産業、文化・スポーツ関連施設を視察しました。

1 ふくしま医療機器開発支援センター(郡山市)

同センターは、医療機器開発から事業化までを一体的に支援する国内初の施設で、医療機器の安全性評価や人材育成・訓練等を実施することができます。外交団は、その最新鋭の設備・器材を視察しました。

2 高柴デコ屋敷(郡山市)

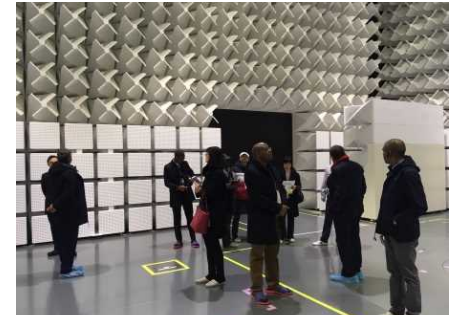
デコ屋敷の「デコ」とは人形のことを指し、人形づくりをする4軒の家が、数百年の伝統を守りながら、張り子人形や面、三春駒などを作り続けています。外交団も、豆だるまの絵付けに挑戦し、それぞれのお国柄と個性きらめく「だるま」を制作しました。

3 奥の松酒造「八千代蔵」(二本松市)

福島県の日本酒は、国内の各鑑評会での金賞受賞数も多く、海外でもIWC(International Wine Challenge)やモンドセレクションなどで受賞するなど、高い評価を得ています。外交団が訪問した奥の松酒造は、享保年間から酒造りを行っている酒造で、良質な酒米と安達太良山の伏流水から、おいしい日本酒を製造しており、外交団はその過程を興味深く視察しました。

4 知事主催レセプション

夜には、知事主催歓迎レセプションが開催され、外交団には会津塗りの盃が贈呈されました。福島県の郷土料理や県産品を用いた料理が振る舞われ、小正月行事である団子さしも体験できました。



医療機器開発支援センターでの
電波暗室の視察



デコ屋敷で豆だるまの絵付け



奥の松酒造で日本酒の
製造過程を視察



知事主催レセプションでの
記念品贈呈

5 相馬原釜漁港(相馬市)

福島県の漁業は、原発事故の影響を受け、小規模な操業と販売をし、出荷先での評価を調査する「試験操業」を行っています。漁業協同組合による自主検査で、国際基準より更に厳しい基準をクリアした魚のみを流通させる体制を構築しています。視察した当日は、ちょうどシラウオが水揚げされていました。



漁港でシラウオの水揚げを見学

6 J ヴィレッジ(広野町)

J ヴィレッジは、日本初のサッカーナショナルトレーニングセンターとして開設されたものの、原発事故後はその対応拠点として、長らく本来の営業を休止していましたが、2018年7月に本来のスポーツ施設としてリニューアルオープンしました。新たに建設された全天候型練習場は、サッカーやラグビーのグラウンド一面が入る国内初の施設です。サッカーボールを蹴りながら、グラウンドを走り抜け、その施設を体感する外交官もいました。



J ヴィレッジ・全天候型練習場での
記念撮影

7 ワンダーファーム(いわき市)

いわき市にあるワンダーファームでは、トマトの生産・加工・販売を一貫して行っており、コンピュータ制御で温度・湿度管理を行うなど、その栽培方法にも新しい技術を活かしています。外交団は、取れたてのみずみずしいトマトに舌鼓を打ちました。



ワンダーファームで
取れたてのミニトマトを試食

8 アクアマリンふくしま(いわき市)

アクアマリンふくしまは、福島の特徴である黒潮と親潮が出会う「潮目の海」をテーマにしています。東日本大震災の津波で大きな被害を受けながらも再建された海洋ミュージアムを視察しました。



再建されたアクアマリンふくしまで
海の生き物を視察

【プログラム・訪問先】

- 1月15日(火) ○ふくしま医療機器開発支援センター
○高柴デコ屋敷
○奥の松酒造「八千代蔵」
○知事主催レセプション

- 1月13日(水) ○相馬原釜漁港
○J ヴィレッジ
○ワンダーファーム
○アクアマリンふくしま